

DVの特質と対策

北仲千里

全国女性シェルターネット

広島大学



DVなど「女性に対する暴力」とは



「女性に対する暴力(violence against women)」

「ジェンダーに基づく暴力(gender-based violence)」

女性が、女性であるために被る社会のあらゆる領域での性被害や虐待のことを表す。街角での痴漢、職場や学校でのセクシュアル・ハラスメント、花嫁の殺人や女性性器切除、拘禁中や戦時における国家や軍隊からの加害行為も含まれる。

DV ストーカー セクシュアル・ハラスメント 性暴力

DVは 男性→女性 なの？

そんなことはありません。

しかし、加害者の圧倒的多くが、男性なのです。

「DV」は「女性問題」ではなく、「男性問題」

男性をDV加害者に育ててしまうこの社会の病気

特徴その1 被害者のおちいる特有の逃れ難さ (心理、恐怖、価値観、生活、こども・・・)

- 交際/夫婦関係・・・性的な被害（レイプ、望まないセックス・妊娠・中絶）
- 愛情や同居、他の人からの空間や接触の隔絶などから、「精神的なコントロール」が起きて、自分では逃れられない。
- 自分よりも加害者を心配したり、信じたいと思ったりする。
- 婚姻関係や同居関係があるため、経済的な問題、子どものことなど、逃れにくい生活上・制度上の事情が生まれてしまう。

特徴その2 DV加害者のプロフィールや認識

- DV加害者は、特定の年齢や社会的地位にだけ存在するものではない。
- 独占欲・支配欲・どこまでも追いかけてやろうとする気持ち
(DVとストーカーはほぼ隣接した問題)
- DV加害者は、誰に対しても暴れたり、攻撃したりする人だとは言えず、親密な相手にだけは、そういう態度をとるのだと指摘されている。加害者の愛情と独占欲の混同。

→ 別れ話に逆上

もう一つの特徴：世間の反応

介入したがる

(子どもの虐待ならもっと真剣になるが)

「夫婦喧嘩は犬も食わない」「別れたらいいのに」

「民事不介入」(←古い知識)

「まあ、旦那さんがいぼるのはふつうでは・・・」

「妻が病床についているときでも家事はせず妻にさせること」は？

1999年の名古屋市民に対するアンケート調査：

「妻が病床についているときでも家事はせず妻にさせること」について、「**してもよいと思う**」「**どちらかといえばしてもよいと思う**」のどちらかに○をつけた人は、男性の回答者では47.6% だった・・・。

対策を前に進めましょう。

支援者、専門家、行政、市民、みんなの知恵と思いを合わせて

セクシュアル・ハラスメント、性暴力、DV、ストーカー・・・
残念ながらこれらは、「極端な、珍しい、特殊な出来事」ではない。

非常にたくさんの人々（特に女性）の人生を狂わせ、心身を傷つけてしまっている。

「女性に対する暴力」を本気で解決していかないと、女性が元気に活躍できる社会は実現しません。